

<24>

★昭和31年、カナダ・カップ英
国大会で堂々第4位に健闘…

林由郎、石井勉夫



いまから二十年前の昭和三十一年、林由郎、石井勉夫のコンビが、カナダ・カップ(現ワールド・カップ) 英連大会で、日本ゴルフ史上最高の第4位という記録をつくって、世界を驚かせた。ワールド・カップといっても、いまでは大し関心を与えないが二十年前は、日本のプロが世界の大会に出られる、たゞ一度だけのチャンスであった。それは日本ゴルフの国際パロメーターであり、日本中のゴルフファンは、その大会の成績に、わが事のような関心をもっていた。私は当時、海外プロを派遣する事務を担当していた。その結果の入電に二喜一憂する立場にあった。そこへ日本4位の知らせが入った。

日本ゴルフ史上最高の記録

つた。第一回目の出場の時、第十四位、二回目が十三位、一年に二ランク伸ばしただけでも十分と思っていたところ、一ききに九ランクの飛躍である。私は驚いた。その時の私の評価は、その翌三十二年の日本優勝の時、二つ入ってより高かった。私は「サンデー毎日」の依頼で、「カナダ・カップ優勝の記」と書いたが、その中でも、成績の価値は、日本第四位のほうが大きい、と感想を述べた。何故か。

カナダ・カップ英国大会で第4位となった林由郎、石井勉夫の両選手



まず、当時の海外行きの環境が、ち書いてみよう。当時は、いまだちがって、ドル貨が自由に使えなかった。渡航審議会の承認やドル使用についての大臣の許可が必要だった。私は大勝や、審議会を駆けまわって、カナダ・カップの趣旨や、日本がこれに参加することは国際的に絶対必要だと説明した。またゴルフが国民的スポーツになつていない時世であったから、このことだけでもねがが折れた。選挙はさし外貨をもちって英国へ飛んだ。

ドルの使用が全く自由だったという例にも一つ懸つけ加えておこう。日本ゴルフ協会は常務理事小寺四一氏を、カナダ・カップ日本大会開催に備えて、見学の

ため英国へ派遣することを決めた。あらゆる努力をしたが、渡航審議会の承認が得られなかった。ゴルフはこのように冷めたい待遇を国から受けていた。

こうした新しいドル事情の中で、林、石井は、とて戦つてくれた。第一回は日本は第三十位近くを低迷する結果、石井が順調なので林さえ回復してくればと思つていたところ、最終ラウンドに、世界の神様、ン・ホーガン、サム・スニードと68、68という奇麗にれと全く同じ68、68という奇麗にも等しいスコアを出して第四位になった。ウェイトルも、スコットランドも、アイルランドも、オーストラリアも、物の数ではない。

みんな日本よりも下位、日本の歴史はじめての国際大記録である。「ワエントワース」を記憶せよ、私はこの言葉をゴルフ史に残しておく。(ワエントワースは大会コース)

写真と文 小笠原勇八

(日本ゴルフ協会元事務局長)